

ドイツに於ける就學前の 教育の發展に就いて

—— アデーレ・メッナー ——

白 根 孝 之 譯

本稿はドイツの家庭教育學者にして曾てベルリンの「新敎派幼小兒保護協會」の役員たりしアデーレ・メッナー女史が、最近の「學校行政と學校監督」誌上に二ヶ月に亘つて載せた論文を邦譯したものである。

就學前の教育の始源

既に古くコメニウスの時代に於ても、ドイツでは、就學前の幼兒の教育の必要なことは多くの教育學者によつて認められ、之に關する種々の意見が發表されてゐた。併しながら、此の時代にあつては、幼兒の教育といふことは實際上専ら主婦の仕事であつて、従つて、當然家庭に歸せらるべき責任であるとの考から、彼のオーバーリンがワル

バッハに於て其の活動を開始するまでは、かうした意見を實行に移さうとした人は無かつた。

一八〇二年に、此のオーバーリンの仕事に刺戟されたリッペ、デトモルトの皇后が、デトモルトに、二歳より四歳までの幼兒を收容する保護設備を設けたのがドイツに於ける就學前の教育——今日の幼稚園の濫觴である。此の設備は、仕事に追はれて子供を顧る餘裕の無い母親に代つて諸種の世話をするものであつて、永い間幼兒の保育に關す

る唯一の機關であつた。次いで一八一九年にいたり、ハッ
ルのアウグスト・ヘルマン・フランケの孤兒院に働いてゐた
汎愛派のワドゼック博士が始めて「保育學校」(Verwahrs-
schule)と呼ばれるものを建てたが、間もなくそれはナポレ
オン戦争に由て夥しく増加した孤兒の爲の孤兒院となつ
た。

之等少數のものが幼兒保育の機關として僅かに活動して
ゐるうち、一八一三年にサミュエル・スピタルフィールドの
有名な著書「生後十八ヶ月より七歳にいたるまでの貧困兒
教育の必要に就いて」(The Importance of Educating the
Infant Poor from the age of Eighteen Months to
Seven Years.)がロンドンに於て出版され、一八二六年に
ドイツ語に翻譯紹介された。之はオーエンの強い感化を受
けたウィルダースピンが、スピタルフィールドの「幼兒學
校」にその教育組織に就いて公にした報告の中に含まれた
ものであるが折から産業勃興の氣運にあつた歐洲各國に少
からぬ影響を及ぼした。ドイツも亦それが例外ではなく、
先づプロイセンの政府が之に注目し、文部當局は各聯邦に

廻章を廻はして「幼兒學校」(Klein-Kinderschule)の設立
をすゝめた。

幼兒保護所 (Klein-Kinder-Bewahraustalten)

當時各聯邦は財政窮乏の極にあつた爲、直ちに此の廻章
の要求に應じるこゝが出来なかつた。一八三〇年にいた
り、ベルリンの一州の「貧民局」が各學校長と協力して一の
協會を作り、就學前の兒童の保護を目的とする多數の設備
を設けた。これが「幼兒保護所」である。次いで翌一八三一
年には、各種婦人事業に従つてゐたヴィルヘルミナ・ゲム
ベルク夫人がベルリンの他の州に同様の機關を設け、一八
三三年には之等各種婦人團體が「就學前幼兒保護機關設置
促進期成同盟」を結成して、三十四の「保護所」を設けた。
かくして一八四〇年にはベルリンだけで四十の「保護所」に
七の同盟が生れた。之等の機關は過度の勞働に従事し、
或は各種不幸な事情にある兩親に代つて、二歳から就學時
期までの幼兒に、必要な身體上、精神上の保護を加へるの
を目的としたものであつた。一八三四年の始に「保護所」は
學務局の監督の下に移され、年一回其の視察を受けるこゝに

に定められた。當時の學務局の或る報告書によれば「子供等は年齢に應じて或は砂場に遊び、或は遊戲、行進し、或は作業を行つてゐた」を記されてゐる。此の時代にあつては幼児の「保護」に任じた者は、特別の教育を受けない婦人であつた。

「幼児保護所」はプロテスタントの教會と連絡した事業であつて、特に一八三四年ゴッスナーによつて建てられた「ゴッスナー幼児保護所同盟」は教會と密切な關係を有してゐたが、子供の收容については素より信仰の如何は問ふところではなかつた。之等の「保護所」は一八三〇年代に敍上の諸氏の努力によつて急激に發達し、幼児百人以上を一所に收容するものも少くない狀態になるにつれて、保護活動に従事する者も一定の資格を必要とするにいたり、幼児に於ける作業及遊戲の意義、精神肉體兩方面の保育方法に關して或程度の知識をもつた男子、或は「オーエンの學校」に於けるが如き夫妻になつて行つた。

幼児學校 (Klein-Kinderschule)

「幼児保護所」と同じ理由に基いて、之は別箇に發生し

た就學前の教育機關にフリードナーの「幼児學校」がある。

フリードナーは「プロテスタント修道院」の設立者として知られてゐるが、一八二八年イギリスを訪れてウィルダースピンに直接合ひ、その學校の實際を見ていたく感激し、歸國するや社會事業の一端として尼僧及信徒の女子に、幼児保育上必要な知識を授け、廣く一般の幼児を集めて保育に従事せしめた。これが「幼児學校」である。

當時教會は大都市や不便な田舎に託兒所を設け、尼僧が之を巡廻して託された子供の面倒を見てゐた。「幼児學校」は直ちにこの制度と結び、更に「オーバーリン協會」を設立しベルリンに近いノヴァーエスに「オーバーリン寮」を建て、保育事業に携つたビッシング等の努力によつて急速に發展し、十九世紀の終には全ドイツを通じて其の數約二千を算へるにいたつた。而して「幼児保護所」がその名の示す如く始めは全然社會事業的、託兒所的性質をもつてゐたに對して、「幼児學校」は始めから特定の教育（一ヶ年間）を受けた尼僧又は信徒の子女が保育に當り、嚴密なカリキュラムに従ふ教育的性質をもつ設備であつた。

カソリック派に於ても少數乍ら此と同様な試が同様な経過を辿つて發達して行つたが、此の派は教育を以て人間の信仰の結果、生活、經驗の所得を後の時代に傳へるものとして考へる爲、プロテスタント派の社會的・教育的な目覺しい活動とは異つて、其の事業は謂はゞ形式的のものにすぎなかつた。

幼稚園 (Kindergarten)

フリードリッヒ・フレーベルがカイルハウに子供の爲の學校を建て、其の活動を開始したのは一八一七年のことである。それは三歳からの男兒を收容する學校であつたが、「寄宿寮」或は「家塾」でも呼ばるべきもので、保育を目的とするものではなかつた。併し從來の他の就學前の教育が一般の教育原理に従つて唯漫然と行はれてゐたのに對して、フレーベルは特に幼兒の爲の教育の意義を認めた最初の人であつた。一八二六年彼は有名な「人の教育」を著して自己の包懷する教育理論を公にし、一八三六年ブランケルブルクに於ける最初の學校を始めたが、其は「子供を單に監督の下に置くにふだけではなく、其の發育の程度に應じた

作業と遊戲とを課し、以て彼等の身體を強健にし、彼等の感性を發達せしめ、彼の心を常に活動的に保ち、彼等に自然界の知識を授け、彼等の心を調和的統一に導き、かくして遊びの間にも子供を創造的ならしめることを目的とするものであつた」。

一八四〇年にフレーベルは自分の招集した集會の席上、彼の此の教育觀を説き、全國家が^{キンダー}子供の健全幸福なる發達をはかる庭——^{ガルテン}キンダーガルテンとやらねばならないと言つて、世の凡ての女性に對して彼の事業に協力せんことを望んだ。この大理想への第一歩として彼は先づ三歳から六歳までの幼兒を收容する最初の幼稚園を建て、家庭の教育を補足し、併はせて幼兒の保育者たるべき者の教育、一般の母親に對する保育に關する教育を施したのであつた。然るに一八五一年フレーベルの思想はプロイセンの政府の忌諱にふれ、爾來一八五九年彼の死にいたるまで、プロイセンに於てはフレーベルの幼稚園は禁壓を蒙ることになった。然し乍ら幼稚園事業に世の婦人の協力を得てその効果を一層大ならしめんことを希つたフレーベルの遺志は、二人

の愛弟子によつて引繼がれることができた。即ち一八五九年、彼の死後幾何もなくフレーベルの思想と事業とに多大の感激を寄せてゐたマーレンホルツ・ビュロー男爵夫人は、ベルリンに「フレーベル幼稚園建設促進婦人同盟」を結成し、フレーベルの死後一年の一八六〇年、三歳より五歳までの子供の爲の幼稚園を復興することができた。のみならずマーレンホルツ男夫人はヨーロッパの諸國をも馳せ廻つて、恩師の教育思想の普及鼓吹につとめた。夫人の力によつて生れた幼稚園は、フレーベルの眞精神よりもむしろ形式フレーベル式玩具や感性の陶冶方法等に重きをおく嫌はあつたが、全ドイツの大都市の殆ど全部が「家庭及社會教育協會」を設けるほゞ幼児教育の思想が普及したことは、一同夫人の功績と言はねばならない。之等の「協會」はいづれも幼稚園及び保姆養成の學校を設けて、保育事業に従つたのであつた。

マーレンホルツ夫人の手になつたものゝ他に「公立幼稚園建設期成同盟」なる團體が生れ、幼稚園教育の擴張に努力したが、その詳細は不明である。

マーレンホルツ夫人と時を同じうしてフレーベルの遺志の實現に努力した今一人の弟子に、フレーベルの姪シュラーデル・ブレーマンがある。シュラーデルは十七歳の時、叔父と共に教育の研究に入つたが、フレーベルの死後、若い女に母としての準備教育を施すを目的とする學校を建て、其處で幼児の正しい育て方を、訓練された保姆の實習について觀察せしむる爲に、附屬の幼稚園をも經營したのであつた。この幼稚園は近隣の農夫や商人の子供の世話を一日のうち午前の三乃至四時間兩親に代つてするもので、フレーベルの生前其の學校で訓練を受けたシュラーデルの姉妹の一人がその任に當つた。併し此の學校に於けるシュラーデルの目的は、直接幼児の保育ではなく、若い女子にかうした方法によつて育児家事、その他一般の文化的内容を教へ、彼女達に賢明なる母、思慮深い女性、社會人としての準備を與へるにあつた。

結婚後シュラーデルはベルリンに移り住んだが教育に對する彼女の關心は決して消えなかつた。即ち彼女は大都市の諸種の事情に幼児の生育上幾多の障礙があることを知

り、「國民教育協會」なるものを創設し、以前の試み大體同様の目的をもつた女學校及附屬幼稚園を創め、叔父フレーベル及ベスタロッチといふ二人の偉大な教育者の名前を記念して之を「ベスタロッチ・フレーベル館」と名づけた。特にベスタロッチの、幼児の教育には家庭的雰圍氣が最も必要であるとの思想、或は作業教育の考へ、或は、人の最初の教育は婦人の義務であるといふ主張は、彼女が心から共鳴する所であつた。以前の學校で育てた弟子の一人マリ・リシンスカが此の學校の主任として働いた。ドイツに於ける就學前の教育機關は現在すべて幼稚園と呼ばれることによつても現されてゐる如く、フレーベルは此の方面の教育に於ける最も偉大な存在であり、而して彼の教育理論はシュラーデルによつて實際に發展せしめられたものであるから、茲に「ベスタロッチ・フレーベル館」の保育の實際に就いて稍々詳しく見てゆくことにする。

シュラーデルは、大都市の子供に缺けてゐる重要な教育的要素は自然的環境に於ける生活であるを考へ、幼児教育に方つては特に此の點を重視し、一年の名季節或は特別の

行事を中心とする保育方針をこつた。例へば春の野邊の花を見れば、之に結付けて花から蜜をこつて行く蜂のこみを教へ、蜜蜂の箱巢や蜜蝋を見せ、秋になれば蜜蠟からクリスマス樹のローソクや菓子を作らせ、幼児を常に自然に日常の生活に接して育てるが如きである。かく自然を移りゆく色々の相に於て觀察し、時々自然の産物を用ひて何かを自ら作るこみによつて、子供は自然の動植物の發育、生成及び人間との關係を知り、一面創造的能力を養つてゆくを考へたのである。シュラーデルは又ベスタロッチと共に子供にこつては家庭といふ小さく温い社會に於ける生活が最も好ましいものであり、且又それはより複雑な社會的生活に入り行く基礎であり、人と共にする生活、人の爲にする生活これは幼児の教育上最も重要な方法であるを信じて、幼稚園では料理や掃除等の家庭的な仕事を行はせた。繪や手工も亦自己表現の重要な手段として彼女の幼稚園では保育上重要な役割を演じた。併し此の點で最も効果的なのは子供の自由な想像力に訴へる遊戲であつた。感性能力を發達せしめるものとしてはフレーベルの創めた遊戲

作業の各種の器具が使用されたことは言ふまでもない。然し讀書算數の術は此の幼稚園(三歳乃至五歳では教へられなかつた。

保姆の養成は母への準備教育といふ一層廣い一般的な方針によつて行はれた。

「ベスタロッヂ・フレーベル館」はシュラーデルの努力によつて急速な發達を遂げたが、一八九八年にはシュラーデル夫人の意見に基いた今一つの「館」が新しく建設された。此の館の子供の遊戲室は六七人の一群に當てられた小さい部屋で、扉にガラスの窓を附け、子供の母親達がそこから遊戲の様子を見るここの出来るやうにされてゐた。幼児の保育には家庭の協力を必要とするこは既にフレーベルの希望であつたが、「ベスタロッヂ・フレーベル館」は幼児の保育と共に、其の母親に保育の方法を知らすといふのをも一つの目的とするものであることは前記した所である。而してシュラーデルは、幼稚園教育の課程・方法・材料は家庭生活の正しい觀察から得らるべく、教育の結果は之に代へて家庭に送返さるべきものであると考へたのであつた。

幼児の健康養護については「館」に看護婦を置いて常に子供の身體の狀態に注意し、月一度は醫師の診察を受けさせ、必要の場合には特別の處置に就いて子供の母親達に臨牀講義を依頼した。子供の食事は「ベスタロッヂ・フレーベル第二塾」に呼ばれる家事學校で、榮養上に十分の顧慮を拂ひ入念に選擇調理された。「館」には又廣い庭園があつて、幼児はそこで遊戲や作業を行ひ、各人に小さい花壇さへ與へられてゐた。

之を要するに「ベスタロッヂ・フレーベル館」は、幼兒に對する保育——獨立に思考し、活動し、創造的且自己表示的作業、仲間の爲に或は仲間と共にする作業に興味をもち、環境の生活に關する經驗と知識とを得て生活と經驗の自覺を發展せしめるに必要な肉體上、精神上の養育を中心とし、兼ねて若い婦人に對し女性の仕事と社會的意義とを知らせ、賢明な子供の育て方、家事的仕事への躰け方等を教へ、種々の興味と社會的仕事とを與へる場所であつた。而してそれはドイツに於ける就學前教育運動の中心として諸種の運動を導き發展せしめた。一八七三年にはフレーベ

ルの學說を基礎として「ドイツ・フレーベル聯盟」(Deutsche Froebelverband)と呼ばれる團體が建設され、相携へてフレーベル主義の研究普及に力めるやうになつた。此の聯盟は現在も幼児教育の諮問機關として存續してゐる。

世界大戰時及其後の發展

一九一四年に彼の世界大戰が勃發する迄は、以上に述べた「幼児保護所」「幼児學校」及「幼稚園」の三種類の保育機關が相互に獨立に、並存してゐたのであるが、大戰はその他の人間生活の分野に於けると同様、幼児教育界にも劃期的な變化を起さしめた。

即ち大戰中はドイツの婦人はその殆んど全部が家を留守にして何らかの仕事に従事せねばならなかつた爲、その幼児の保育といふことは重大な國家的問題となり、こゝに就學前の教育機關に對する必要が増加した。かくして今日の種々の保育機關(主として「幼児學校」及「幼稚園」であつたが)の大多數は、大戰の中に建てられたものである。

戰時は幼児の榮養或は生理的狀態を正常に保つといふ保

健・榮養の問題が、當局の最大の關心事であつた爲、就學前の教育に關する一切の機關はいづれも此の問題を中心として活動し、教育といふ點は或程度まで閑却され勝ちであつたが、幼稚園の教育に當る者を養成する師範學校は(Kindergarten Seminare)漸次其の程度を高めて行つた。

大戰後は、ドイツの社會は新政府の下に各方面に急速な復興を遂げたのであるが、就學前の教育事業も亦大いに促進された。殊に注意すべきは此の事業には何よりも各方面の協力が必要であり、又全國的に之を統一する必要があることを説く人々が増加したところである。この要求に基いて生れたのが、將來の幼児教育を規定した一九二四年の「幼小兒保護法」“Reichsjugendwohlfahrtsgesetz”である。

之には「ドイツ州すべての子供は自己の心的・肉體的・社會的能力を發展せしめる上に必要な教育を受くべき權利を享有す」と規定されてゐる。即ち之を反面から言へば、國家が子供に對して教育を施すべき義務を引附けたのである。

若し兩親が何らかの事由で子供の教育保育の出来ない場合には、國家又は公共團體は之に代つて子供の要求するところ

ろのものを與へる義務があるのである。従つて此の子供の要求を知る必要が起り、國家は就學前教育問題の各方面の權威者を集めて委員會をつくり、保育に關する根本原則を定めんとした。此の根本法則には教育上の種々の問題は勿論、校舍、設備、遊戲の器具等に關する最も重要な事柄が規定されてゐる。

(1) 目的——幼稚園は家庭を扶けて子供の身心を世話し、之に社會的教育的理由によつて家庭に求め得ない發達の機會を與へるを以てその目的とする。

(2) 一般的規定——幼稚園は兩親の要求により、二歳より五歳までの一切の子供に對して、社會的若しくは宗派的差別なく開放さるべきである。

父兄は最小額の月謝を負擔す(其の額は經濟狀態によつて定める)。

(3) 舍屋——幼稚園は砂場のある庭園、少くも二十人毎に二つの部屋、料理場、浴場、携帶品置場、別室をもたねばならない。

遊戲室は北向きを避け、十分の廣さの空間と窓を有

し、容易に清掃し得る壁と床から成ることを必要とする。

浴場には浴桶、シャワー、鹽、タオル、洗ひ布、鏡等を設備するを要す。

椅子は年齢に應じて高さを異にするを要し、各幼児に一つづつの戸棚を與へ、室内及調度は簡素、美、家庭的のいふ三の條件に適ふことが必要である。

鐵・金槌・釘の如き組立てに用ふる道具・紙粘土・繪樂器等の作業用の材料・器具・人形・ボール・動物等の玩具、空箱小石・絲卷等の材料、出來れば小動物を各幼児に與へること。

(4) 養護——少くも四週目に一度身體検査を施行し、榮養狀態に留意し、果實・野菜の攝用を勧め、毎日の日課は大部分戶外の遊び、休憩により十分の空氣、身體の運動をせしめるを要す。

(5) 教育——教育は家庭的雰圍氣の中に身心の發達——感性・獨自力・創造力・社會的意識の發達を圖るを以てその目的とすべきである。

教師——幼稚園の教師は特別の師範學校 (Kindergarten Seminare) 卒業者たることを要す。その數は少くも二十

人毎に一人とし、一ヶ月に一度は母の會を開き、幼児の狀態の記錄、家庭の訪問等をその仕事の一部分とする。

斯くの如くにして政府が幼稚園の監督、經營、幼稚園教師の養成等に任ずるやうになつた爲に、主として宗教團體に屬してゐた晝間保育所の如き特殊の保育機關も漸次に統一され、二歳から五歳までの幼児の保育にあたる機關はすべて「幼稚園」に稱されるにいたつた。唯近時に於ける社會的若しくは政治的變遷に伴つて生れた社會主義者の團體「子供の友」(Das Kinderfreunde)によつて經營される幼稚園は、その設立の目的上個人としての幼児の保育よりも之を通して彼等の社會主義理論の實現を目的とする特殊の幼稚園である。

教師の養成

幼稚園の統制と相伴つてその教師を養成する師範教育に就いても特別の法制が設けられた。幼稚園の教師は之を保姆(Kindergartenin)と呼び、家事教育を加へたアメリカハイスクールの女學校程度の豫備教育を必要とする。即ち此の師範學校の入學は十八歳以上の女子中等教育終了者たることを條件

とし、學習期間は一年半乃至二ヶ年、學習課目は教育史、教授法、心理學、社會心理學、生理及衛生學、文學、兒童文學、自然科學、文化科學、紙・粘土・木材等を用ふる産業的手工、圖畫・音樂等を主とし、一週三回三時間づゝの實習を必要とする。

此の課程を了つた者は更に一年助手として實地の修業を積んだ上獨立に幼児を受持つことを許される。更にその後二ヶ年幼稚園又は幼兒家塾(Kinderheimen)に於て幼兒教育の實際に携つた者は、師範學校の高等科——幼稚園の保育主任又は視學官養成の目的で特設されてゐる二年制の高等科に入學の資格を得る。この科は出生より青年期に入るまでの子女の綿密なる研究、両親の教育、教育學、心理學、變態心理學、社會學、教育、職業教育の問題等の他に、社會的乃至教育的各種施設機關内に於ける實習から成り、全課程の履修者は法規に定める國家試験を経た後、前記の地位に就き得る「青年指導官」(Jugendleiterin)の資格を與へられる。

以上がドイツに於ける就學前の教育の始源及び世界大戰

を中心とする其の發展の概略である。

最近の實情

世界大戰前に於ては幼稚園に收容する幼児は三歳から五歳の者に限られ、年齢に應じて之を二組に分けることになつてゐたが、大戰中に特殊の必要から二歳の幼児をも收容したのが現在まで續いて、今では二歳から五歳までの幼児を收容することになつてゐる。そこで之等の年齢——從つて發育の程度の異なる幼児を幾つかの組に分つことが當然問題になつて來るが、先づ「ペスタロッチ・フレーベル館」が二歳の子供の一組を作り、特に生理上、肉體上の發達といふ點に重きをおいた保育を施すことにした。又此の組の幼児は特に此の年齢に於て犯され易い傳染病を妨ぐために、特別の制服を著せられる。保育の課程や遊戲の道具が他の組のものに異なるのは言ふ迄もない。

「ペスタロッチ・フレーベル館」では又五歳の子供を特別の一組とし、基礎學校(小學校四年迄) Grundschnle の仲介といふ意味から特に之を「媒介學級」Vermittlungs-

Klassen と呼ぶ、一層進んだ指導と豊富なカリキュラムを實施するが、讀書・算數は未だ教へない。その他の幼稚園に於ては主として保育者と保育室の不足の爲に、未だ此の年齢による組の區分は十分には行はれてゐない。但し遊戲や作業の種類によつて區分された幾組かがあつて、戸外の遊戲や食事の時にも各組毎に一所に集められることになつてゐる。

最近に於ける保育上の最も著しい進歩は、虛弱兒の爲に特別の考慮が拂はれるやうになつたことである。一九〇六年に精神的虛弱兒の爲の最初の組がシャーロットンブルグに設けられた。現在「ペスタロッチ・フレーベル館」の保育學校には、精神上及肉體上の虛弱兒の爲に各々特別の組が設けられ、特別の取扱と配慮が加へられてゐる。

その他に最近の小學校——特に大都市の小學校には「小學校附屬幼稚園」(School-Kindergarten, Vorklassen) と呼ばれるものが設けられた。之は本來の幼稚園とは異つて、既に學齡に入つた兒童にして身心の虛弱の爲に普通の學校作業に伍すことの出来ない者の爲に、特別の世話と

取扱を加へる組である。即ちそれは前記の「兒童指導官」(Jugendleiterin)の指導の下に、虛弱兒の爲に愉快な溫い家庭的雰圍氣を作り、感覺能力・言語能力・運動能力・體力の發展といふことを主たる目的とする。此處で或程度の補習的教育を受けた後、大部分の者は小學校に入れられるのであるが、特に虛弱の程度は著しく就學の困難な者は「保護學校」Hilfschuleに送られる。此の幼稚園の保育と小學校の教育とを兼ねたやうな試みは、その良好な結果に鑑みて漸次擴張せられ、今では學校系統の一となりつゝある。

幼小兒童の保育・教育を掌る機關は全て、教育といふ目的の他に、兩親特に母親の側から生ずる社會的要求をも満たす任務をもつものであるが、最近の社會的情勢はますますこの要求を高め、多くの保育機關は單に二歳——五歳迄の保育兒のみでなく、當歳の嬰兒及學齡兒童をも世話する部門を置くにいたつた。後のものは「兒童保護所」(Kinderhorten)と呼ばれ、此の世紀の始頃から著しく増加したものである。蓋し社會事情の變化といふことの外に、更に現

代の教育思想から言つて、兒童が放課後を街頭に過すといふことが色々教育的に考慮されるやうになつた爲である。是等の「保護所」は幼稚園に接置されるのが普通である。

就學前の幼兒と學齡に入つた兒童とを一緒に收容する學校を特に「兒童晝間家塾」(Kindertagesheime)と稱し、「指導官」を以て塾長とし、十二乃至十五人の子供毎に一人づつ保姆養成所の教育を経た助手を置く。

かうした就學前教育の進歩發展に伴つて、保育者の養成を目的とする師範教育も亦著しく擴張されつゝあることは言ふ迄もない。

次に幼稚園ではどんな日課が行はれてゐるかといふに、多少の差異はもとよりあるが大體に於て下の如くである。即ち日課は朝の七時から九時迄の間に始まる、此の時間は幼稚園所在地の狀況によつて異り、母親の要求希望に基いて定められる。中には九時から十二時迄開かれてゐるにすぎないものもあるが、大多數の子供は四時乃至五時頃迄は園に残つてゐる。先づ子供が集まる「朝の歌」を唱和し、その後で普通は自由遊戲にうつる。子供は皆それ／＼遊び

の材料を入れる戸棚を與へられてゐて、それを以て自由に遊ぶのである。子供達は皆早い朝食をこつて來る爲に、午前の辨當としてサンドウィッチや果物を家から持つて來るこゝになつてゐる。それが終るミ音楽又はリズムの時間になる。是等はすべて、出來るだけ戸外で行はれる。幼稚園には滑り臺、はしご等の運動具は備へられてゐない。經費の關係もあるであらうが、興味も伴はないものゝ考へられる。それ故子供の遊びは主として砂場、庭園、球戲等を中心とするものである。それから新鮮な野菜、ポテト、時には肉の晝食が與へられる。午後の残りの時間は遊戲、お伽噺、兒童劇等で自由にすごされる。

保育學校にはすべての子供に就いてその發育の情態を記録する保育簿といふものがある。その形式には一定した定めはなく、保育者の最も便利を考へる形式を撰んでいゝが、

(1) 言葉——話——の綴り具合、發育の誤り、もつれ舌、吃音の有無

(2) 色彩感覺——識別し得る色の數種類

(3) 形の識別能力

(4) 運動能力

(5) 他の兒童との關係、社會的順應性、一般的舉動進退等は必ず記録されねばならぬ事項とされてゐる。而して記録に方つては特に試験的・實驗的な方法に由ることなく、日常の作業や遊戲の間に自ら現れる子供の性質・能力を注意深く觀察した結果によるべしとされてゐる。

保育學校では少くも月一回は母の會を開くこゝになつてゐるが、二週間に一回といふこゝに定めてゐるのが多い。母の會では特別の研究プランが定められてゐる場合もあるが、時々招聘する講師の講話の内容や、討議の題目等が自然に育児問題の中心となつて、相互に意見の交換が行はれる。席上父兄は學校で行はれる保育に就いて聞き之を理解し、又保育問題に就いて質問する機會が與へられる。學校は保育の効果を大ならしめる爲に、父兄の訪問參觀を歓迎し、時には幼稚園に必要な器具や玩具を設へつけるに方つて之を後援する。中には父母の爲に圖書館を設けてゐる幼稚園もある。併し教育を論じた書物は少く、特に兒童心

理について通俗的に書かれたものは稀であるから、圖書館は兩親の教育には直接にさして力があると思はれない。

保育觀

教育は單に教育現象の理論的考案を事とする科學でもなく、又教育の目的規範を定める哲學でもなく、一般的に規定することの出来ない生成發達そのものを扱ふ點に最も重要な意義をもつものであつて、心理學・生理學・生物學・社會學・哲學等の補助學から得て來る教育理念は決して教育の第一義的なものではない。

現在の保育教育に關する諸種の意見はフレーベル、近くはシュプランガー、ナトルプ、リーツ、ケルシエンシュタイン等々の教育學說及び自然科學の新發見、心理學・文學の文獻等から得られたものであるが、其の主要なものを舉げれば次の如くである。

(一)作業主義的理念——木・紙・絲等の種々の材料により各種の對象を取扱ふことによつて子供の能力を高めるべきである。

(二)部屋・床・食器・小動物等の世話をするこゝによつて

自發的活動の力を養ふことが肝要である。

(三)音樂・圖畫・積木・お囀・劇等によつて自己表現の能力を養ふことが必要である。

(四)保育者は取扱ふ事物の名稱を言はせ、幼兒の環境に入り來る動物・植物・事件等に就いて話させ(それは第三の目的にも役立つ事柄であるが)或は繪本や物語り等によつて、幼兒の經驗を了解させることが大切である。

(五)感覺の發達——(イ)色紙・珠・花等によつて色彩及形式的識別能力を發達せしめ、(ロ)音樂その他各種の高低・音色を異にする音によつて聽感覺を鋭くし、(ハ)種々の物體や織物を取扱はせて觸感覺を發達せしめること。

(六)自治・獨立の精神の涵養

(七)社會的感情の培養

(八)眞理・善・美に對する敬虔な意識を養ふこと。

最近の教育思想に於ては教師は漸次その地位を後退し、消極的・背景的な意義しか與へられなくなる傾向があるが、教師はごこちまでも指導者であるべく、「外的には消極的に、内的には積極的に」こゝの活動の原則である。

保姆は子供に幼稚園を楽しみ、之を我家さし心からその作業に協同するやうな雰囲気を作つてやり、子供が自ら解決できないやうな問題だけについて之を扶け、尙進んで新しい觀念を呼覺し、環境を整へ、新しい技術を示して子供の自發活動を觸發するやうに心掛けねばならない。現代のドイツの保姆養成に於ては、子供を扱ふ技術よりも子供に對する態度、子供の經驗を理解する觀察力の養成さういふ點に重きを置いてゐるのである。保姆は又子供の家庭生活に通じ、両親と常に親しい接觸を保つことを要求されてゐる。

子供を深く理解するには兒童心理學の他に種々の子供に關する文學書を讀む必要がある。例へばゲーテ、シラー、ケッラー等のクラシックから現代のトマス・マン、トルストイ、ワッサーマン等にいたる迄の諸家の手になつた諸作、偉人の傳記或は憶出の記等が之である。是等の中から例へば子供の最初の記憶、子供の眼に映つた成人の姿、新しい弟妹をもつた時の彼等の印象等について知り、之を子供の話や空想と比較して子供の世界について深い洞察を向け、之をよく理解することが大切である。かくて子供

を全體として、その型、本質を把握するなら、子供の個性特質に應じて正しく之を導くことが出来る。性格と人格との陶冶は各種の技術知能の發達に比して遙かに貴重なものであるとするのが、現代の新教育理念の一般的傾向である。

最近に於ける心理學の發達が就學前の教育に及した影響には小さからぬものがある。先づ精神分析學の影響は、潜在意識・精神的倒錯 (Komplex)・幼兒時代の重要視等の點に於て著しい特徴をもつ。之によつて保育者は子供を或種の行爲から未然に妨ぐことができる。幼稚園教育に及ぼした精神分析學の影響は創始者のフロイドよりもユングやキュンケルの方が大きい。ケーラー、コフカ一派のゲシュタルト心理學も子供の觀察、その行動及學習過程を理解する上に少なからぬ寄與を爲した。併し最も大きな影響を及ぼしたものは、各種の型の衝動・動機によつて各種の型の性格が生れるさういふ型式心理學を唱へ、婦人の教育に於ける地位を尊重したシュブランガーであらう。保育の實際に就いてはウイリアム・シュテルン、カール及シャルロッテ・ビュー

ラーの功績が大きい。而して是等の心理學者の根本的思想方向は、子供を全體的に、環境の一構成員として、環境との關係に於て眺め、之を洞察してその構造・種類・特質を明かにせんとする點に於て相互に一致してゐるを見るこゝができる。

マリヤ・モンテッソリーの思想はその主要點に於てドイツ的な考へ方とは方向を異にするものであるが、保育思想の上に大きな影響を及ぼしてゐる。特に共同團體によつて設立された保育學校の人々は、彼女の教育方法を高く評價する傾向があるが、一般的に言へば、モンテッソリー主義はフレーベルの流れに屬するものによつて猛烈に反對されて來た。

幼稚園の監督と管理

現在ではすべての保育學校は國家の監督の下に立つてゐる。即ち保育學校の教育的方面に就いては文部大臣之を監督し、市督學官(Stadtschulrat)が巡視するうちに定められ、新しく保育學校を設立する場合には各州教員團(Provinzialschulkollegium)の認可を必要とする。而して社會的方

面については保育學校は内務大臣の監督に屬し、「衛生部」及「兒童局」の協同を得てその管理に任ずる。

保育學校の幼兒は各州兒童局の監督を受ける。兒童局は家庭に於て適當な保護を受けてゐないことを認める幼兒を、其の手によつて幼稚園に入れることが出来る。是等の幼兒は他のものは優先的に扱はれ、月謝は兒童局を経て共同團體から支出される。保育學校は其の保育經過を特別に記録し、四週毎に當局へ報告する義務がある。

幼兒の保健・衛生に關しては、兒童局が特定の校醫を送る地方もあり、小學校の校醫が之を兼任する所もあり、又専任の校醫を置く保育學校もある。醫師は入園前の幼兒を診査し、且つ四週間毎に學校を訪問してその狀態を検し、著しく健康狀態に缺陷ある幼兒は特別に配慮を加へる。傳染病の發生は即刻届出でねばならない。又巡回乳母なるものがある。是等身體上の養護の他に、精神上の保健を目的とする少數の設備がありベルリンの「ルート・フォン・デル・ライエン」の設備は就學前の兒童の精神的保健に任ずる最も有名なのである。

結 語

ドイツの就學者の教育狀態は大體に於て上に述べた如くであるが、特殊の點に於ては各地方によつて發達の程度を異にし、小都市や田舎では一般に發達が後れてゐる。プロシア始め大都市地方に於ても、特別の事情にある地區の幼稚園の標準を高めんとする努力は十分に拂はれてゐるにも拘らず、發達の程度は區々として統一がない。社會的事情が非常に低い地區に於ては、衛生・保健的方面の顧慮が主になつて、教育的方面は第二にされてゐるのも已むを得ない事柄である。中には又兩親や諸團體の保育に對する關心が十分に發達してゐて、幼兒の生育に必要な思はれる一切の設備が行届いてゐる所もある。又特定の社會階級・職業階級に屬する家の子供のみを收容してゐるものもある。保育者養成の爲の試行的保育學校(Versuchsschule)は他のものに比して遙かに發達してゐる。ドイツの大學は今日では未だ就學前の教育に對しては頗る無關心であると言ふこ

とができる。研究の目的で大學に置かれた保育學校は一もない。

一九二九年にベルリンには四百の「晝間家塾」があり、收容兒の三分の二は就學前のものであつたが、之は未だ必要な數の四分の一にしかあたらない。經濟生活の壓迫が加るにつれて家族の數は漸次減少する傾向があるが、現在の多くの家庭の如く子供が只一人しか無い場合、之を幼稚園に入園せしめることは最近の就學前教育の一の問題である。なぜなら兄弟の無い子供にまつては幼稚園の保育さいふこそは特に大切であるから。又經濟上の原因に基く今一の結果として、狹隘なアパートに於ける生活は、幼兒の身心に著しく惡影響を及ぼしつゝある。かゝる狀態から幼兒を護るべき教育上、社會上の方法を講ずることも、現在のドイツの保育學校の一任務である。

以上